

IV—39

AHPによる歴史的建築物の評価に関する研究

- 北海学園大学工学部 学生員 盛 亜也子
 北海学園大学大学院 学生員 鈴木 聡士
 北海学園大学工学部 フェロー 五十嵐日出夫

1. はじめに

都市の近代化により、建造物による歴史の連続性が分断されつつあり、開道130年余の北海道においても同様である。そして、これは地域の歴史や技術の分断にもつながると考えられる。

このような背景から、平成8年に「文化財保護法」の改正によって「登録文化財」が導入された。これは、築後50年以上の歴史的建造物をまちの観光資源・事業資産等として保全・活用しようとするものである。加えて、これらを利用した「まちづくり」においては、専門家と市民双方の意識・意見等を明確に把握し計画を行うことは重要となるであろう。

そこで本研究は、歴史的建築物の評価を建築関係者、一般住民双方の視点から行う。そして、この評価結果を比較・分析し、今後の「登録文化財」のあり方、さらにはこれらを活かした「まちづくり」の方向性を考究するものである。

2. 研究方法

2-1 AHPによる歴史的建築物の評価

札幌市内にある歴史的建築物に加え、近い将来「登録文化財」となり得る築後50年未満の建築物について評価を行う。

(1) 評価要因の設定

建築関係者及び一般住民の各グループで、ブレインストーミングとKJ法により設定する。

(2) 代替案の選定

建築関係者と一般住民の各グループで、ブレインストーミングにより挙げられた案について、アンケートを行い選定する。

(3) 階層図及び評価結果の分析と比較

建築関係者と一般市民の階層図について比較・分析する。また、それぞれの評価結果の分析を行う。

3. 歴史的建築物の評価

3-1 評価要因の設定

(1) 建築関係者

平成11年11月6日(土)、北海学園大学工学部内にて、建築関係者等の4名(男3名、女1名)でブレインストーミングを行い、以下の14要因が挙げられた。

意匠、形態、造形性、歴史性、シンボル性、周辺景観との調和、使用頻度、思い入れ、認知度、再現性、作品性、技術性、愛着、材料

次に、KJ法により計6つの評価要因に集約された。以下にそれらの評価要因を示す。

- ・歴史性：建築物の歴史的価値等
- ・デザイン性：色、外観等
- ・愛着度：思い入れ等
- ・技術性：建築物に使われている材料等
- ・シンボル性：札幌らしさ、象徴性等
- ・調和性：周辺の景観・建物との調和等

(2) 一般住民

平成11年12月1日(水)、北海学園大学工学部内にて8名(男7名、女1名)によりブレインストーミングを行い、以下の22要因が挙げられた。

使いやすさ、形、色、威厳、古っぽさ、材質、デザイン、ファサード、利用頻度、行きやすさ、建っている場所、使われ方、利用性、思い入れ、調和、古さ、歴史的背景、地域らしさ、シンボル性、修築の有無、目にする機会が多い、知名度

次に、KJ法により計6つの評価要因に集約された。以下にそれらの評価要因を示す。

- ・歴史的背景：建築物の歴史的背景、修築の有無等
- ・デザイン性：色、外観、材質等
- ・愛着度：思い入れ、良い思い出がある等
- ・利活用性：これからの実用性、現在の利用のさ
れ方、アクセスのしやすさ等
- ・シンボル性：札幌らしさ、象徴性等
- ・調和性：周辺の景観・建物等との調和等

The evaluation of the historical architectural by AHP.
 by Ayako MORI, Soushi SUZUKI, Hideo IGARASHI

3・2 代替案の選定

(1) 建築関係者

平成 11 年 11 月 13 日（土）、北海道大学工学部内にて 19 名（男 15 名、女 4 名）でブレインストーミングを行い、以下に示す代替案が挙げられた。

北海道庁旧本庁舎、ぼすとかん、旧小熊邸、旧拓殖銀行本店、北海道大学農学部本館、時計台、札幌緑学園キノルド記念館、豊平館、八窓庵、札幌市資料館、知事公館、札幌市民会館

次に以上の 12 代替案から代表代替案を選定するために、「代表的な歴史的建築物である」を「1」、「代表的な歴史的建築物でない」を「0」として、アンケートを行った。その結果を基に、被験者の評価負担度を考慮し、上位 6 つを代表代替案として選定した。以下にそれらを示す。

北海道庁旧本庁舎（道庁赤レンガ）、豊平館、札幌市資料館、札幌知事公館、札幌市民会館、旧拓殖銀行本店

(2) 一般住民

平成 11 年 12 月 1 日（水）、北海学園大学工学部内にて 8 名（男 7 名、女 1 名）でブレインストーミングを行い、以下に示す代替案が挙げられた。

北海道庁旧本庁舎、時計台、札幌テレビ塔、サッポロフカト・レンガ館、札幌市資料館、豊平館、知事公館、旧拓殖銀行本店、旧永山邸、サッポロビール（株）開拓使麦酒記念館

次に、建築関係者の場合と同様のアンケートを行い上位 6 つを代表代替案として選定した。以下にそれらを示す。

北海道庁旧本庁舎（道庁赤レンガ）、豊平館、札幌市資料館、旧拓殖銀行本店、時計台、札幌ファクトリー・レンガ館

3・3 AHPによる歴史的建築物の評価

AHP (Analytic Hierarchy Process) には基本的な手法として、相対評価法と絶対評価法があるが³⁾、本研究では絶対評価法を用いた。この方法は代替案数が多い場合、被験者の負担を軽減することが可能なため、本研究では最適であると考えた。さらに評価水準を「とても良い、良い、普通、悪い、とても悪い」の 5 段階に設定し、評価水準ウエイト理論による理論値⁴⁾によってウエイトを設定した。なお、有効回答は C.I. < 0.15 とした。

また、被験者によって建築物の情報量、知識量等に差があるため、基本的情報として建築物の写真、建築年代、旧名称、所在地および建築物の特徴を提示した（表・1 参照）。

表・1 代替案の概要¹⁾

	建築年代	所在地	備考
道庁赤レンガ	明治21年	中央区北3条西5丁目	昭和43年に復元改修し塔屋も再現した。
豊平館	明治13年	中央区中島公園内	昭和33年に現在地へ移築。第一宿泊客は明治天皇である。
札幌市資料館	大正15年	中央区大通西13丁目	全国で7カ所建築された控訴院のうち現存するのは名古屋と札幌のみである。
知事公館	昭和11年	中央区北1条西16丁目	玄関正面の扁平な尖りアーチや出窓上部の「四葉飾り」が特徴。
市民会館	昭和33年	中央区大通西1丁目	建物を2つのブロックにわけ、緩衝空間によって並立させている ²⁾ 。
旧拓殖本店	昭和36年	中央区大通西3丁目	戦後の建築物にしては多量の石材を用いている。
時計台	明治11年	中央区北1条西2丁目	札幌農学校（現北海道大学）がこの地にあったことを示す唯一の証である。
札幌7カントリークラブ館	明治25年	中央区北2条東4丁目	平成5年にサッポロファクトリーに改修された。

(1) 建築関係者

AHPによるアンケートの概要と階層図を以下に示す。

実施日：平成 11 年 11 月 13 日（土）

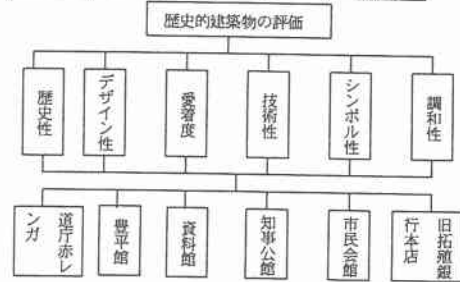
実施場所：北海道大学工学部内

対象者：建築関係者 19 名（男 15 名、女 4 名）

内訳を以下に示す。（カッコ内は有効回答数）

表・2 被験者の内訳（建築関係者）

	男	女	計
20代	13(8)	3(2)	16(10)
30代	2(1)	1(0)	3(1)
計	15(9)	4(2)	19(11)



図・1 階層図（建築関係者）

(2) 一般住民

AHPによるアンケートの概要と階層図を以下に示す。

実施日：平成 11 年 12 月 3 日（金）

実施場所：北海学園大学工学部内

対象者：札幌圏に在住の一般住民 13 名（男 10 名、女 3 名）で、全て 20 代であった。

なお、有効回答数は 11（男 8、女 3）である。

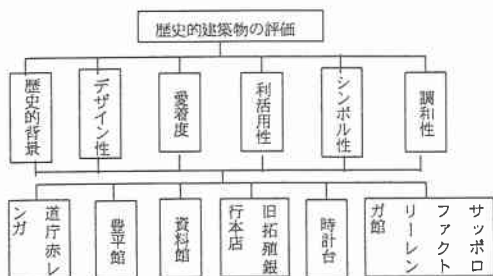


図-2 階層図（一般市民）

4. 階層図及び評価結果の分析と比較

4.1 階層図の比較

両グループ共に評価要因、代替案はほぼ同様である。しかし、建築関係者と一般住民の間に次の違いがある。

- ①一般住民は、評価要因に「技術性」ではなく「利活用性」を挙げた。
- ②一般住民は代替案に、札幌の代表的な建築物を選定した。

4.2 評価結果の比較

(1) 評価要因ウエイトの比較

建築関係者、一般住民の評価要因ウエイトの集計値を図-3、4に示す。

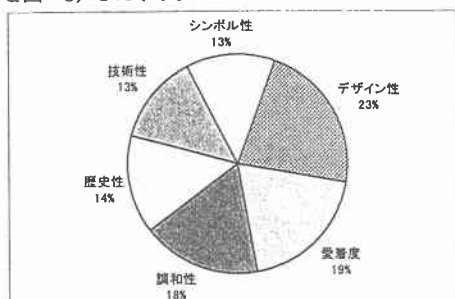


図-3 評価要因ウエイト（建築関係者）

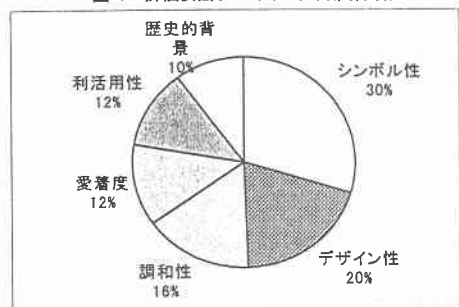


図-4 評価要因ウエイト（一般住民）

この2つのグラフから次のことがわかった。

a) 建築関係者

- ①「デザイン性」、「愛着度」を重視している。
- ②「シンボル性」を軽視している。

b) 一般住民

- ①「シンボル性」、「デザイン性」を重視している。
- ②「歴史的背景」を軽視している。

c) 両グループの比較

- ①一般住民が極めて重視している「シンボル性」を、建築関係者は最も軽視している。
- ②「調和性」は共に、同じくらいのウエイトである。
- ③「デザイン性」は両グループ共に重視している。
- ④「愛着度」に関しては、一般住民ではあまり重視されていないが、建築関係者では「デザイン性」に続き2番目に重視されている。

(2) 総合ウエイト集計結果比較

建築関係者、一般住民の集計された総合ウエイトとその構成を図-5、6に示す。

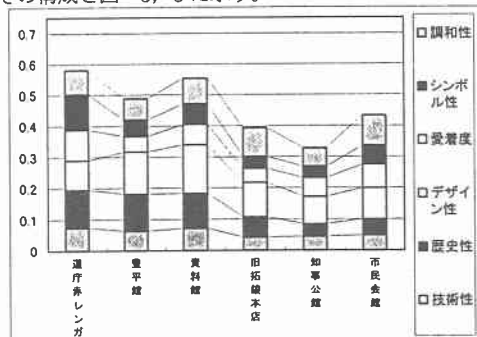


図-5 総合ウエイトとその構成（建築関係者）

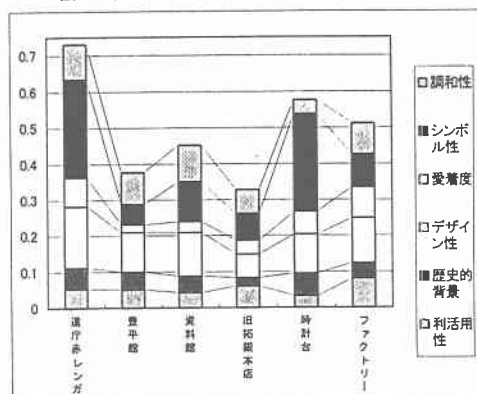


図-6 総合ウエイトとその構成（一般住民）

この2つのグラフから次のことがわかる。

a) 建築関係者

- ①「北海道庁旧本庁舎」、「札幌市資料館」について、ほぼ同じくらい高く評価をしている。
- ②1位の「北海道庁旧本庁舎」は、全ての要因について平均的に評価されている。
- ③2位の「札幌市資料館」は、「デザイン性」が高く評価されたために、総合ウエイトが高くなった。

以上より、「北海道庁旧本庁舎」と「札幌市資料館」は総合ウエイトが同じくらいであるが、その評価構成は異なることがわかる。

b) 一般住民

- ①「北海道庁旧本庁舎」を高く評価している。
- ②1位の「北海道庁旧本庁舎」は、「シンボル性」が他の代替案に比べ高くなっている。
- ③「時計台」は、「北海道庁旧本庁舎」に比べ、「シンボル性」以外の要因は低く評価されているが、「シンボル性」が高く評価されているために、2位となった。
- ④「利活用性」について、ショッピングセンター等として市民が日頃利用できる建築物である「サッポロファクトリーレンガ館」、「旧拓殖銀行本店」を高く評価している。逆に「札幌市資料館」、「時計台」の現在の利用のされ方は、あまり受け入れられていないと考えられる。

c) 両グループの比較

- ①「北海道庁旧本庁舎」を両グループ共に高く評価をしている。
- ②一般住民は、札幌の観光名所として知られている「北海道庁旧本庁舎」、「時計台」において「シンボル性」を高く評価しているため、この2つの建築物が上位となった。
- ③両グループ共通の4建築物（北海道庁旧本庁舎、札幌市資料館、豊平館、旧拓殖銀行本店）は、建築関係者では高く評価されているが、一般住民では「北海道庁旧本庁舎」以外は、低く評価されている。
- ④両グループ共に重視されている「デザイン性」は、どの建築物についても極端な評価の差は見られない。

5. おわりに

5-1 結論

結果の比較・分析より次のことが考察される。

- ①建築関係者と一般住民の間では、歴史的建築物を評価する場合、評価視点はかなり異なる。
- ②建築関係者は「デザイン性」を最も重視しているが、一般住民は「シンボル性」を最も求めていることが分かる。
- ③一般住民は歴史的建築物の評価要因として「利活用性」を挙げている。また、一般住民が日頃利用している建築物の「利活用性」が、高く評価されることから、歴史的建築物を「保全」のみではなく日常生活において、身近に利用できることを求めていることが推察される。

以上のことから、今後の「登録文化財」を活かした「まちづくり」考える場合には、「デザイン性」や「愛着度」さらには「歴史的背景」のみだけではなく、一般住民が重視している「シンボル性」や、建築関係者では要因として挙げられなかった「利活用性」を十分考慮すべきであろう。

5-2 本研究の成果

本研究で得られた主要な成果は次のとおりである。

- ①評価要因、代替案を被験者によって設定し、評価を行うことにより、建築関係者、一般住民が歴史的建築物を評価する際の視点が異なることを明らかとした。
- ②また、それぞれの評価結果を比較することで、歴史的建築物に対する評価意識の違いを明らかにした。

5-3 今後の課題

本研究の課題を次に示す。

- ①各年代層の被験者数を増加させる。
- ③各評価要因において高く評価される建築物の特徴について考究する。

(参考文献)

- 1) 角幸博：札幌の建築探訪，北海道新聞社，1998，10
- 2) 新建築 12月号，株式会社新建築社，1958
- 3) 木下栄蔵：AHP手法と応用技術，総合技術センター，1993，8
- 4) 鈴木聡士：AHPにおける意味論的評価法の提案，土木計画学研究・論文集 No.16，1999，9